

2.4 川崎縦貫線整備により発現する社会的便益の検証

- ・ 時間短縮や混雑緩和の効果を表す利用者便益の面積当たり便益額は、値が高いほど便益を受ける利用者の発生・集中が高いことを示している。
- ・ その分布状況を見ると、1 ha あたりの利用者便益の高いゾーンが川崎市を中心に東京都心部や町田・相模原、多摩方面など広範囲に広がっていることから、川崎縦貫高速鉄道線の整備効果は、川崎市民の市内交通の円滑化、市民の利便性向上、鉄道アクセスの改善とともに、首都圏における広域的な鉄道網の形成や混雑緩和にも寄与している。(図 13 参照)

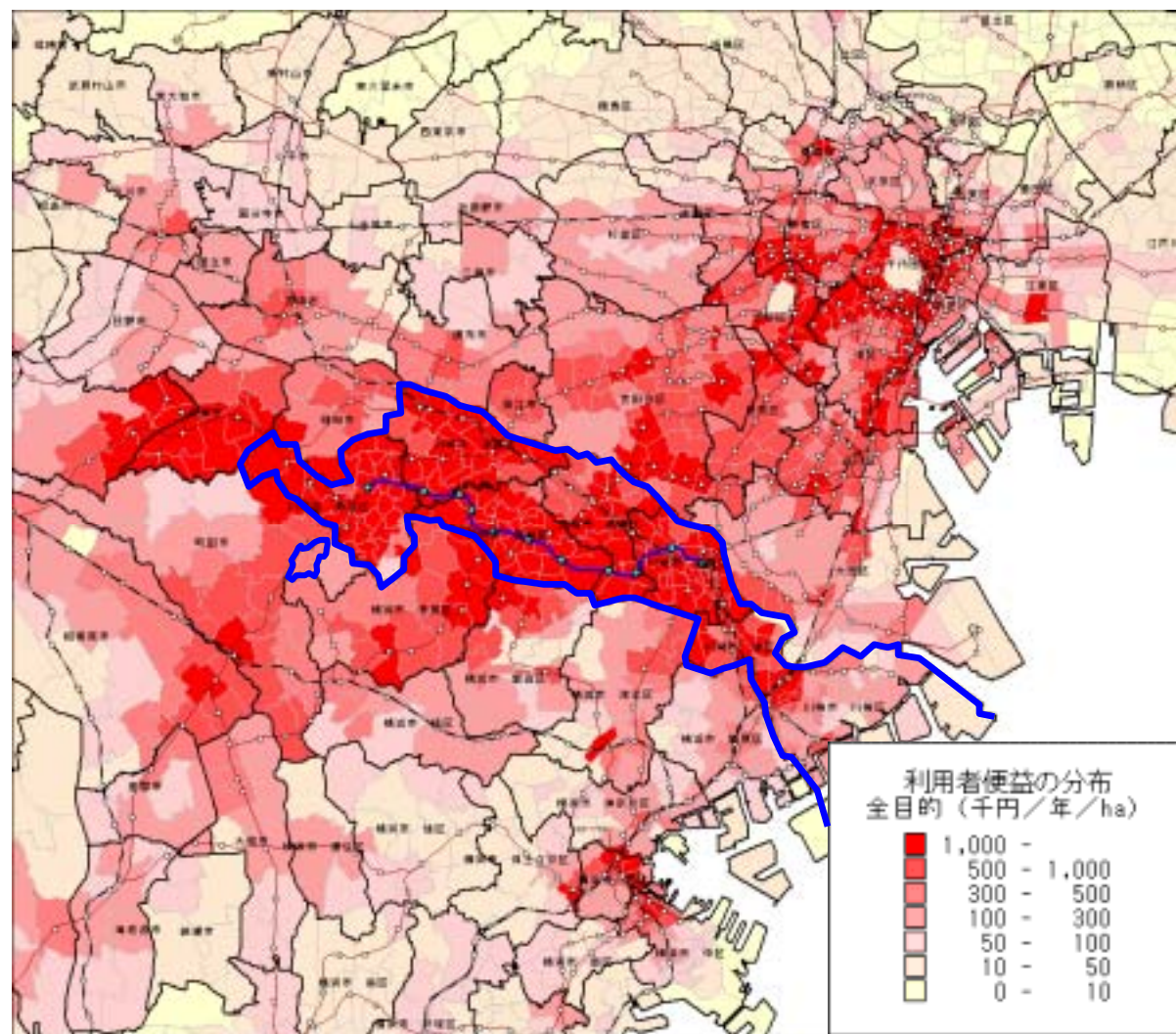


図 13 利用者便益の分布状況 (選好接近法：発着計)

利用者便益：鉄道利用者の時間短縮、費用節減、車両内の混雑緩和によってもたらされる効果を金額換算（一般化費用）したものを。川崎縦貫高速鉄道線が整備された場合と整備されない場合の鉄道利用者の一般化費用の差が便益となる。

選好接近法：時間の節約を獲得するのに犠牲にしてもよい金額と節約時間との関係を、現実の交通行動データから分析し、時間評価値として計測しようとするものである。需要予測の際に使用したモデルの時間と運賃のパラメータから、この時間評価値を求める。

時間評価値 通勤：43円/分 通学：11円/分 私事：21円/分 業務：46円/分